

第1回

南相馬市まち・ひと・しごと

創生有識者会議

会 議 録

南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議

第1回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

| | | | | |
|-------------|----------------------------------|---------------|--------|---|
| 会議の名称 | 第1回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議 | | | |
| 開催日時 | 平成27年5月9日(土) 13時30分開会・15時30分閉会 | | | |
| 開催場所 | 南相馬市役所 本庁舎3階 第1会議室 | | | |
| 委員長 | 高木 亨(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授) | | | |
| 委 員 | 移住者代表 副委員長 | | 武藤 琴美 | |
| | 原町青年会議所 | 理事長 | 杉内 亜希 | × |
| | 原町青年会議所 | 総務委員会委員長 | 和田 智行 | |
| | 小高商工会 | 青年部長 | 片岡 太成 | × |
| | 鹿島商工会 | 青年部長 | 若松 真哉 | |
| | 原町商工会議所 | 青年部副会長 | 松本 卓真 | |
| | 原町地区連合会 | 議長 | 諸橋 誠敏 | × |
| | A.C.ハマーズ2001 | 副会長 | 原田 正己 | × |
| | A.C.ハマーズ2001 | | 仲野内 勇作 | × |
| | ひよこサークル | | 福崎 歩未 | |
| | 原町第一小学校PTA | 会長 | 谷田部 真敏 | × |
| | あぶくま信用金庫本店営業部 | 融資係主任 | 遠藤 敬志 | |
| | 移住者代表 | | 鈴木 聡子 | |
| | 南相馬みらい創造塾 | 卒塾生 | 佐藤 まゆみ | |
| 事 務 局 | 復興企画部 | 部長 | 安部 克己 | |
| | 企画課 | 部次長兼課長 | 植松 宏行 | |
| | | 課長補佐 兼企画係長 | 涌井 秀之 | |
| | | 企画係主査 | 藤原 道夫 | |

1 開 会

2 あいさつ

- ・復興企画部長よりあいさつ。
- ・会議に先立ち、委員による自己紹介及び事務局による自己紹介。
- ・委員長、副委員長の互選。
事務局より委員長に高木亨委員、副委員長に武藤琴美委員を提案し、承認。
高木委員長、武藤副委員長より就任あいさつ。

3 協議事項

(1) 有識者会議の役割とスケジュールについて

企画課主査

資料に基づき説明。

委員長

ただいまの説明に対し、意見、質問等はあるか。

特にないようなので、次に進む。

(2) その他

委員長

特に事務局からなければ、委員の皆さんは長年あるいは数年南相馬市に住んでいるものと思うが、私はほぼ南相馬市を知らない。震災を経て、やっぱり南相馬市のこういうところが好きだとか、こういうところが南相馬市には足りていないといったようなことをぜひ私に教えてほしい。

委員

正直にいうと南相馬市のよいところはあまりわからないが、震災後いろんな人を案内したときによく言われるのが、気候がすごく良いということ。言われてみれば小高には貝塚があり、大昔から人が住むのに最適な場所だったのでという人もいる。また、住みやすかったがゆえに頑張る必要もなかった地域だと思う。

震災が起きて、今まで気づいていたが何となく放っておいたものが顕在化し、いろいろとやらなければいけないことが出てきた状況で、あちこちで頑

張っている方がいるというところも南相馬市のいいところだと思う。

委員

南相馬市のいいところはのんびりとしているところと、以前聞いた話で驚いたのは、震災前の1世帯当たりの子どもの数が1.88で日本一だったということ。これは沖縄の数字と同じということでさらに驚いた。2050年に今の状態を維持しているのは沖縄しかないという話を本で読んだが、そういうことを考えると、南相馬市は元に戻ればかなりのポテンシャルを持っている。震災でガラッと変わって元に戻るもの、戻らないものはあると思うが、戻らないものも十分補てんされているとは思っている。

東京で働いていたころ、周りの人は誰も相馬野馬追を知らなかった。ただ、千年を超える祭があるまちは全国でも数少ない。そういった財産があることは誇りに思っている。そういうことからすれば、みんなが名刺に野馬追のマークを入れるなど、一人ひとりが宣伝部長になるべき。

4年前の震災があって、原発がいまだ収束していないという状況はありながらも、すべてをネガティブにとらえる必要はない。

委員長

ないものねだりではなくあるもの探しということは、水俣の吉本先生という方も言っている。水俣病でダメージを受けた水俣市でもそういった考え方が地元の活力につながっていく。非常に大切な考え方だと思う。

委員

原町には北泉海岸があり、震災前はサーフィンの世界大会も開かれていた。もう一度そういった大会が開かれるようなきれいな海岸にしてほしい。海と山があるところが南相馬市の素晴らしいところだと思う。

委員

海がこれだけ近くにあるところは、友達に聞いてもなかなかない。震災前は木村拓哉も来るようなイベントを開いていた。そういった海に戻ってほしい。

震災後、会津や東京に避難したが、南相馬に戻ると言ったらわざわざ戻る必要はないのではと言われた。放射線量の説明をして大丈夫だと言っても外の人には伝わらない。県内の報道と違い、全国のニュースではほとんど取り上げられない。

南相馬市は、悪い言い方をすればダサイし田舎くさい。でも私はそんな南相馬市で結婚し、子育てをすると決めた。何でそんなにこのまちがいいのだろうと自問自答したところ、決め手はふるさとのあったかさだと思った。気候もそうだが、人があったかい。子どもと散歩していると、皆さんが声をかけてくれる。年配の人に限らず、学生も声をかけてくれる。南相馬の子ど

もたちは本当に素直だと思う。確かに南相馬市はダサイし田舎くさいが、そういうところが売りだと思う。

ただ、ほかの地域の人にバカにされないように、全国的にも低いと言われる学力を向上させたり、まだ放射能に対する不安があるため、医療や福祉の知識のある子どもを増やしていければよいと思う。

南相馬市は全国的にも注目されていることから、それを逆手にとってPRしていけばいいと思う。私たち母親たちの中で「のまたん」の評判がすごくいい。ただ、のまたんグッズが少ない。車に貼るようなステッカーをつくったり、東京のイベントに出したりすれば、もっと自慢できるまちになると思う。

また、母親たちの間では、「ようこそ赤ちゃん誕生祝い品支給事業」はすごく喜ばれている。母親たちはそういった情報には敏感になる。ただ、震災後大変な状況で子どもを育てていた母親たちからは、こんな状況で子育てをしてくれてありがとうというものはないのかという声もある。

委員長

最後の話は子育てだけでなく、産業にも当てはまると思う。企業誘致にばかり手当をするのではなく、残って頑張ってくれた企業に対しても手当をするべきだという話はよく聞く。

委員

スポーツでまちを盛り上げるということもできると思う。この地域から優秀なスポーツ選手も多く出ているが、どうしても環境がよくないことから中通りなど環境の良いところに出て行ってしまう。

また、交通事情などから大きな大会もこの地域は敬遠されがちである。そういった大きな大会が誘致できればひとの流れもできてくる。

委員長

スポーツでは相馬市が力を入れている。彼らが言うには松川浦がだめになったので、その代替としてスポーツに力を入れているとのこと。確かにスポーツには人を集める力があると思う。

委員

私はここに来る前は札幌と東京に住んでいたが、札幌には人のつながりが全くなかった。地域の違いも特にない印象だった。

東京にいたころ、東日本大震災が発生し、仲間内で突如南相馬支援会をつくろうという話になった。震災の報道で東京の電気をつくっているのは南相馬をはじめとする福島の方のおかげだという話になり、それまで沈んでいたが急に元気になって、ものを集めて4月に南相馬市に来た。その当時は放射能の状況も全くわからなかったため、年配の私たち夫婦が来た。そのと

きから南相馬市の人たちと仲良くなり、今でも東村山から支援会の人たちが来て交流が続いている。

被災地の状況を知っている人と知らない人ではかなりの温度差がある。PRの仕方が重要だと思う。

これから自然増を期待するのは非常に難しく、人口を増やすためには大々的に移住者が必要。原発被災地は他の被災地と比べ放射能の心配があることから、理解してもらうことが必要だと思うが、先日東京で相双地区に移住したいという人に対する説明会を開いたところ、急きょ宣伝したにもかかわらず、13人の人に来ていただき、皆さん真剣に話を聞いてくれた。ちゃんと話をし、ちゃんとこの魅力を知ってもらえれば、移住者は十分見込めると思う。だから、我々はここで夢みたいな話をして、それを事業に落とし込むのは事務局の仕事だと思う。

委員長

この会議はアイデアが勝負。いろんな話をするのが大事だと思う。

委員

移住してきた当初、住むところがなくて非常に困った。そのときにこのまちは優しくないと思った。2013年当時アパートの数もほとんどなく、家賃も高く、不動産会社も強気でとても感じが悪かった。

その当時特に小高区では人の住んでいない家、開いていない店舗が多くあり、すごく暗い印象を受けた。原町区でも補償の問題等で空いているが貸さないという物件が多いと聞いているが、そういうことで移住者に対して貸さないということが続くと、その時点で南相馬市のイメージが悪くなる。良くも悪くも南相馬市の知名度が高く、人の出入りが多い今だからこそ、人を受け入れる体制が必要だと思う。もう震災から5年目に入り、そういった体制をそろそろ整えないと、南相馬市がそっぽを向かれてしまう。

若い人にも南相馬市に住みたいという人は多くいると思うが、なぜ結婚している人や子育てをしている人だけが優遇されるのか。おそらく独身者のほうが身動きはしやすい。移住者を増やしたいのであれば、むしろ独身者をターゲットにしたほうがいいかもしれない。ボランティアなどでここに来てくれた人が南相馬を気に入って、ここに住みたいとなったときにハードルを低くしてあげるべきだと思う。

先ほどのまたんの話が出た。のまたんはふるさと回帰支援センターのキャラクターで、使うのにはいろいろと縛りはあるのだろうが、市が共同でグッズを増やしていければいいと思う。盛り上げるには市役所をはじめみんなの力を合わせる必要がある。

私の地元は宮城県だが、ここに来るまで野馬追のことは知らなかった。野馬追の関係者のところに行って話を聞くと、すごく内輪なイベントだと感じる。これでは知名度が広がっていかないと感じた。外側で頑張ってPRしよ

うとしても、実際に参加している人の意識が変わらないと無理だと思う。今50～60代で、趣味で参加している人が多いと思うが、馬を飼育したりその他諸々でかなりのお金がかかる。これらの人たちが引退して、30～40代の人たちが維持していけるかということ、かなり難しいと思う。千年続いた祭をこれからも維持していくためには、外の人をもっと気軽に参加できたり、若い人への資金面のバックアップも必要だと思う。また、甲冑師や染物屋など千年続く陰にいる人を育てることも必要。家でつないでいくだけでなく、やりたい人がいれば、そういった人たちをバックアップしていくことが必要。

委員

私は南相馬市のいいところは相馬野馬追だと思う。現在テレビ局に勤めていることから、震災後は必ず取材している。ただ、いまだに馬追いと言われるなど、決して知名度は高くない。頑張ってPRして、ねぶたに負けない祭にしたい。

震災後、大甕の騎馬会を取材したときに、ガレキの中を歩く騎馬武者を見て、これが南相馬市の侍魂だと感じた。

県外で出身地を聞かれて、南相馬市だと答えると、「あ～」という反応が返ってくる。また「高いお金をもらっているんでしょう」とも言われる。そう言われたときにどう答えるかが大事だと思う。

委員長

私も以前相馬野馬追を見たことがあるが、確かに内輪の祭という印象はある。それでも千年続くというのはすごいことだとは思う。

一通り発言をいただいたが、追加での発言はあるか。

委員

「しごと」について。他の地方の人からよく聞くのが、働く場がなくて企業誘致をしても、リーマンショック等があれば簡単に撤退してしまうということ。やはり地元の零細企業や中小企業が地域の雇用を担うのが理想。雇用にはお金がかかり、当然大企業にはかなわないが、中小企業こそ地域にあり続ける企業だと思う。企業誘致にばかり重点を置くのではなく、商工会等と連携を取りながら、地元企業を育成するような施策に取り組んでほしい。

いま地元企業が困っていることとしては、労働者不足が最も大きいと思われることから、例えば高校生のインターンシップなどに取り組むのも一考。あまり企業誘致に重点を置きすぎると、失敗した自治体の二の舞となる。

委員

いま働く人がいないという話があった。子育て世代の中にも、以前バリバリ働いていたが、出産を機に専業主婦となった人がちらほらいる。その背景として、もちろん望んでそういう形を選んだ人もいるが、一方で夫の職場で

社員が減ってしまったために、一人にかかる仕事量が増え、残業時間が増えたために子育てを母親が担わなければならなくなったために専業主婦になったという人もいる。

子どもを預けようにも保育所の定員も少ないうえ、特に年配の人からは母親が子育てをするのが当たり前というプレッシャーもある。東京では30代になってもバリバリ働く人は多くいるが、この地方は女性は結婚して一人前、子どもを産んで一人前という考えが根強く、女性に厳しい地域だと思う。

保育園に空きがあれば預ければいいという単純な話ではなく、あの保育園は若いママが多いとか、年配のママが多いなどそれぞれ特徴があり、そのために預けることをためらう場合もある。このように、女性が働けない事情としてはいろいろと複雑なことから、様々な角度から細かく検討するべきだと思う。

宮城県には伊達正宗さま（伊達武将隊？）という五人衆がいて、イベント等でいろいろなPRをしている。南相馬市ものまたんなどのキャラクターや、ディネードなどのご当地ヒーローなど、地元がいち押しのもので外に向けてPRすべき。それが回り回って相馬野馬追の存続につながると思う。相馬野馬追のときに中学生が踊るが、もっとほかのイベントで踊ってもらってもいいと思う。

委員

ディネードの話が出たが、先日も相馬市でほら貝の人と共演しており、イベントでの活用は十分考えられる。また、ご当地ヒーロー協会の中で、全国のイベントで活躍している。ディネードは南相馬市ではなく相双地域のヒーローだが、全国のご当地ヒーローの中でも衣裳、ストーリー、音楽においてレベルが高い。

のまたんについては、市が補助金を出しているふるさと回帰支援センターのものなので、自由に使っていいと思う。

私が移住してきた2011年10月当時は、まだ家賃は安かったが、既に物件数は少なかった。そのときに住むところが見つかったのは、おじさんおばさんの口コミのおかげ。東京に住んでいた人からすれば、さほど広い家はいらぬ。仮設住宅の広さでも十分。当初私たち夫婦ともう一人で部屋をシェアしていた。ただ、当時は同一世帯とされシェアハウスが認められなかった。最近になって認められてきたが、このようにいろんな住まい方がある。

移住者が地元の人たちとどのようにかかわるか、移住者が何を求めているかというのは、市役所が考えているものとかかなり違いがあると思う。

相馬野馬追は、東京では本当に知られていない。

委員長

いくつか今後の話につながるようなヒントが与えられたと思う。

伝統行事を核にすべきだが、あまり知られていない。これをどのようにす

るかということが次の世代につながっていくということ。

キャラクターをもっと上手に活用すれば、PRにつながる。野馬追もPRすべきかどうかは関係者の意見も聞かないと一概には言えないが、あるものを活かすという観点からすれば、資源はまだまだありそうだということが分かってきた。

人口増につなげるところで、社会増を目指す部分と自然増を目指す部分の施策の展開を工夫しないとミスマッチを起こしてしまう。独身者の移住に対する助成などは、おそらくどこの自治体もやっていない。その辺りを工夫することで南相馬らしさを生むのではないか。

よそ者に対する冷たさは、裏を返せばあったかさにつながる。

委員

きちんと話せばあったかい人が多い。知り合いがいれば入っていけるが、何も知らない人にとっては入りにくい地域。

委員長

あとはどの地方でもあることだろうが、女性の生き方に対する意識改革を進める、あるいは型にはまらなくても生きやすい取り組みを模索していくといいのかもしれない。これは男性にもあてはまる。

昭和村では「織姫」の取り組み（からむし織体験生の募集）を行っている。これも若い女性を村に呼び込んで職業体験をさせるというものだが、その魂胆には村の男性と結びつけるというものがある。このように若い人をこの地域に呼び込むということのヒントが、今日の話の中でもいくつか出されたと思う。次につなげていきたい。

4 その他

(1) 会議の持ち方について

事務局

今回の会議は、委員の多くが現役世代であることから、平日は仕事で出席が困難であると考え、勝手ながら土曜日の午後に設定したが、会議開催に最適な曜日、時間等についてご検討いただきたい。

委員

小さい子どもがいることから、夜の開催だと参加は無理。きょうも実家に無理を言って預けてきた。次回は会議中子どもを見てもらえるような配慮をしてもらえるとありがたい。

委員

日曜日の開催も避けてほしい。

事務局

それでは次回以降については、土曜日の日中ということで設定していきたい。

(2) 謝礼等の振込先について

事務局

振込依頼書の提出について説明。

(3) 次回開催予定について

事務局

次回については、7月の開催を予定している。詳細が決まり次第早めにお知らせすることとしたい。

5 閉 会